

与那国駐屯地への対空電子戦部隊の配備に関する説明会における 質疑応答（Q & A）

Q 農業をやっています。今まで自然交配ができていましたが、最近ではできなくなっています。電磁波は蝶や動物に影響があるのではないですか？

A 国際基準と同等である国内法令・安全基準に従って対応しているところであり、それらを遵守する形で、周囲の安全等を第一に考えています。

Q 対空電子戦部隊の配置について、島民にデメリットがあるのであれば教えてほしいです。

A 対空電子戦装置は、国の安全基準を遵守した装備品です。運用にあたっては、しっかりと町と連携して対応していきたいと考えています。

また、部隊を置くことで自衛隊関係者が増えるという側面もあります。必要な装備品を配置するためには、それを運用する隊員も配置する必要があり、それらの隊員についても、引き続き、与那国町の皆様と関係を構築させていただきたいと考えています。

Q 電磁波の安全性について、日本の電磁波の基準が甘いということを知っていますか？ E U やほかのヨーロッパの基準よりは甘いものになっているという認識はありますか？

A 総務省所管で国内法を整備しているところ、それらはWHOの基準と同等のものとなっています。また、基準は国ごとに様々設けられていると承知していますが、防衛省としては、我が国の国内法令・安全基準を遵守して取り組んでいるところです。

Q ネットワーク電子戦システム（NEWS）で得た情報は米軍と共有することを想定していますか。また、対空電子戦装置を使用する際は米軍から得た情報において運用することはありますか。

A 米国は我が国の同盟国です。その上で、どの装備品の情報を共有するのかをお答えすることは困難ですが、一般論として、日本を守るために必要な情報共有は行う必要があると考えています。

Q 対空電子戦装置は普段はどこにありますか？また、電波の強さは既存のレーダーと比べてどうなっていますか？

A 対空電子戦装置は有事の際に使用する装置であるため、基本的には車庫に格納されており、適宜訓練で展開します。また、具体的に強さの度合いをお答えすることは困難ですが、安全に留意して使用するものであり、周囲に影響を及ぼすものではありません。

Q 中距離地对空誘導弾部隊（中SAM部隊）はいつ頃配備する予定ですか？

A 中距離地对空誘導弾部隊の配備については、駐屯地東側用地の施設整備等の進捗状況を踏まえる必要があり、現時点において具体的な時期について決まったものではありません。今後、具体的な配備時期が固まっていきましたら、しっかりと説明させていただきたいと考えています。

Q 既にレーダー監視等をおこなっていますが、もし、与那国にミサイルが飛んできたときに迎撃ができるようなシステム等は現時点でありますか？

A 日ごろから色々な装備品を通じて、情報収集、警戒監視を進めています。イージス艦やPAC-3など様々なアセットを状況に応じて展開し、対応してまいります。また、計画している中距離地对空誘導弾については弾道ミサイルにも対応できる能力があり、防空体制を整えているところです。

Q 今後どれくらい隊員が増えますか？

A 今後、電子戦部隊の新編・増強及び中距離地对空誘導弾部隊の配置が計画されています。なお、中距離地对空誘導弾の部隊配備に伴う増加人数は、現時点で確定したものではありませんが、他の駐屯地における事例に則して申し上げれば、100名程度になるものと考えています。

Q 自治を守るためにどのようなことを考えていますか？自衛隊が人口の大半を占めることが、島が飲み込まれると思っている住民もいます。

A 地元の皆様の生活や伝統、文化への影響がないよう、組織として隊員が地元で溶け込めるように取り組んでまいります。

Q 与那国島に部隊を設置する最大の理由は何ですか？

A 安全保障環境が戦後最も厳しく複雑になっている中において、抑止力を高めていくことが必要と考えています。外交が重要なのは前提ですが、国を守るための抑止力を向上させるため、防衛力を強化しているところです。

Q 射場で行う訓練は実弾を使用しますか。

A 今後整備予定の覆道射場は、鉄筋コンクリート造の頑強な施設であり、その中で実弾を使用して射撃訓練を行います。

Q 今般の配備は何かの準備、次のステップだと思えます。いざというときに町民は逃げることはできますか？

A 我が国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しく複雑になる中、これまで、沖縄本島にしかなかった陸上自衛隊の部隊を、与那国、宮古、石垣と部隊配備を進めてきました。そのうえで、今般、対空電子戦部隊や今後、中距離地对空誘導弾部隊の配備を計画しており、与那国島の皆様をはじめとする国民の皆様を守るための抑止力を高めていく必要があります。また、国民保護については、訓練等を通じて、その実効性を向上させる必要があると考えています。

Q 守ると言っていますが、最後に犠牲になるのは子供や女性、体の弱い方になるのが世界から見てもあきらかです。そのようなリスクを踏まえたうえで、今回の部隊配備を考えていますか？

A まずは外交が第一という考えのもと、何かあったときのための備えをおこなっています。自衛隊は相手を攻撃するものではなく、国民を守るためのものであり、攻撃を躊躇させる抑止力を高めているところです。

Q 特定の国を念頭に置いているものではないとのことですが、高市総理発言と矛盾しており、閣内不一致だと考えるがいかがでしょうか？

A いかなる事態が存立危機事態に該当するかについては、実際に発生した事態の個別具体的な状況に即して政府がすべての情報を総合して判断するものです。総理の発言についても、その趣旨を述べたものであり、政府の考えは変わっていません。対空電子戦装置についても特定の国を念頭にしているわけではなく、我が国を守るためのものです。

Q 対空電子戦や中距離地对空誘導弾部隊配備をすること、特に火薬庫を整備することは、攻撃対象になるのではという危惧をもっていますが、どのように考えていますか？

A 今後、中距離地对空誘導弾部隊の配置も考えている中で、火薬庫も必要ということで計画させていただいています。保安距離についてもしっかり検討しており、安全性についても関係法令に則って整備してまいります。対空電子戦装置や中距離地对空誘導弾というのは、防御のための装備品であり、我々としても自分たちが守る力、抑止力を働かせて、国の安全を守っていくことが重要だと考えています。

Q 各集落に宿舎があり、今後比川地区に新たに宿舎を建設することですが、具体的にどこに建設するのか教えてほしい。

A 現在、場所の選定作業を進めているところであり、現時点では確たることはお示しできませんが、既存の宿舎の近傍に建設する予定です。

Q 宿舎について、ペット飼いたいから宿舎に住めないとか、近隣住民とうまくいっていないから宿舎ではなく民間を借りていると声があります。そのような状態で新たに建設するのはどのようなのでしょうか。また、宿舎の空き状況等は怎么样了か？

A 新設した祖納地区の宿舎は、完成から時期が浅いため空き部屋がある状況ではありますが、今後隊員の異動のタイミングで入居は見込まれると考えています。また、ペットについては、そのような声があることは承知しており、ペットも同居できる環境を試行している状況です。

Q 自衛隊員が民間宿舎に住んでしまうと、一般の方々が民間宿舎に住めないという事態になると考えています。自衛隊員は国設宿舎に住むようにルールの見直し等を進めていただきたい。

A 自衛隊員が民間住宅を借り上げ、一般の方々の住環境を圧迫することがないように、宿舎建設をしっかりと進めていきたいと考えています。

Q 家賃が自衛隊員にあわせているため高騰しています。

A 民間の家賃が高騰していることは、承知しています。一般の住民の方の住宅事情に影響が出ているところを解消できるように、宿舍を整備して、隊員は宿舍に住んでもらうように取り組んでいます。

Q 子供たちが増えるように家族帯同で来てほしいと声をあげてきました。宿舍についても、各集落に分散して建設することはできないでしょうか。隊員が色々な形で公民館活動をしていることに感謝しています。子供がこれ以上減ってしまうと学校が閉校してしまうことも考えられます。家族帯同をお願いします。

A 家族帯同で来てほしいとのご意見も承知しています。隊員それぞれ個々の事情もありますが、ご要望に応えられるように考えてまいります。

Q 宿舍の建設については、家族帯同の人数が減ってきていると承知している。その中での新たな宿舍建設は、計算が甘いのではないですか？

A 家族帯同については、隊員それぞれ個々の事情もありますが、町長からも要望があるところ、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。また、民間の住宅事情を圧迫しているということも承知しておりますので、一般の方々への影響を極小化していくために宿舍の整備を進めたいと考えております。

Q 隊員の子供がきたことで、島民の子供が保育園に入れないということが起きています。

A 住民の皆様への影響がないように、しっかりと取り組んでまいります。

Q 要望ですが、訓練は集落内ではなくて訓練場でやってほしいです。

A 駐屯地内でやることを第一としていますが、駐屯地外でやることもあります。その際は一方的にやるのではなく、しっかりと町とご相談していく考えです。

Q 米軍の来島が増えていくと不安に感じることもあるため、今後どうなるのかを教えてください。

A 現時点で、日米共同訓練の今後について回答できるものではありませんが、地元の皆様に影響がないように考える必要があると考えています。

Q 与那国で事故を起こしたオスプレイの機体は、現時点でどうなっているのか。

A ご指摘の機体は修復が完了しており、令和7年8月には佐賀駐屯地に移駐しています。

Q 部隊の配備はいいのだが、住民避難もしっかりと考えてくれるのか。

Q いざことが起こったら、もう人的云々でなくて、もうめちゃくちゃに破壊されてしまう。「守る」ということにあわせて、住民避難についても一生懸命考えてもらえないか。

A まず外交が当然第一ですし、その中で、自分たちの国を守るということをしっかりと示すために、抑止力として防衛力整備を進めています。

その上で、有事の際の避難について、国民保護法に基づき、国や地方公共団体等が連携・協力し、住民の皆様の避難等の国民保護措置を行うこととされています。国民保護は、国を挙げて対応するものですが、防衛省・自衛隊としても、しっかりと対応に万全を期してまいります。

Q 国を守ると言っていますが、軍備を拡大すればするほど、住民は緊張に晒されていると感じています。島に人がいる以上、ここで戦争はできないはずなんです。なんで戦争の準備をしているのですか。国民保護というのならば、日本で実際に災害に遭ってとても困っている人たちいっぱいいます。その人達を自衛隊はどうして真っ先に元の生活に戻れるようにやってあげてないのですか。本当に国民保護というなら、困っている人をまず保護してください。

A 住民の皆様には様々な意見があることは承知しています。まずは外交により、そうした事態にならないよう国として取り組んでいくことが第一です。その中で、国としては外交を補完するためにも、我々には国を守る力があるのだということを示すことが大事であり、そのために装備を配備し、抑止力、つまり、日本は自国を守る力があるということを示していくべきものと考えています。

その上で、国民保護については、国民保護法も制定されていますが、国として何があってもいように備えておくことが大事だと思っております。災害については、自衛隊は、日本全国各地で都道府県から災害派遣要請があれば、様々な任務がある中であっても、災害派遣によってしっかりと対応しております。災害後の復興につきましては、関係省庁や自治体との役割分担があり、その中で役割分担に応じて対応していくことになります。

Q 与那国からリュック1つ背負って出てくださってという状況になったとき、それはいつ示されるのか。与那国町民が逃げるタイミングは、いつどこで見極めるのか。

A どのタイミングかをお答えすることは困難ですが、その時点で得られている情報を総合的に分析して、直ちに対応してまいります。

Q 受忍論や住民の暮らし権利、生きる権利、基本的人権っていうのをまず整理することが抜けている。ここで生きていきたいということは、生きる権利はしっかり整理してから行くべきではないか。

A 実際に有事となった場合どうするのか、そうしたご心配からのご指摘と思いますが、今回の対空電子戦部隊の配備は、あくまでも防御のための装備であって、そもそも攻撃仕掛けさせないため、そうした事態にさせないものです。政府として対応すべきものは、所管する省庁に共有します。

Q 住民避難で自衛隊機が使用する場合はあるとのことであるが、これは、隊員家族を優先的に避難させるためではないか。

A 国民保護については、防衛省だけでなく政府全体で取り組むこととなります。その上で、自衛隊は、わが国を守るという任務がありますが、その任務の支障がない限りにおいて、自衛隊のアセットも活用することがありうることをご説明したものです。

Q 上地町長が就任以降、頑張っているような説明会が開かれている。中谷前大臣は住民説明会は考えていないと言っていた。町長の考えが分かっているのであれば、どうしてあの時点でそのような発言をしたのかを聞きたい。

A ご指摘の中谷大臣（当時）の発言については、その時点において具体的な予定が確かにありませんでしたので、それを踏まえて述べたものですが、同時に、丁寧な説明や適切な情報提供をしっかりと行う旨も述べたところです。

Q 本日の住民説明会は住民を対象にしていると認識しています。与那国は人口約 1,700 名ということから、本日の会場は狭い、かつ一人 1 問は少ないと考えています。

A 防衛省としても、丁寧に説明することが重要と考えています。他方、島民全員にということは難しいと考えているため、今後、質問等がありましたら、町役場等に質問をいただけたら、防衛省としてもしっかりと回答してまいります。

Q 倉庫建築工事の公告が出たが、内容は地下 1 階、地上 1 階となっています。地下 1 階というのはシェルターになる予定なのでしょうか。

A お尋ねの倉庫建築工事は、令和 7 年 1 月 21 日に公告しております「与那国外（7）倉庫等新設建築その他工事」と承知しています。当該倉庫の地下階はシェルターではなく、各種補給品の保管スペースとして整備する計画です。

※住民説明会時には当該ご質問に具体的にお答えできなかったため、回答を追記しております。